地域づくり人物リレー 第24回

# 「蛍のいる自然・田園風景を子どもたちに繋ぐ」

## 宮田ほたるの里を守る会 星野 信好さん（渋川市）

地域づくり人物リレーは、県内で地域づくり活動をされている方を取材し、紹介してまいります。第24回目は、星野 信好さんにスポットを当て、お話を伺いました。

宮田ほたるの里を守る会　星野　信好さん

### 活動をはじめたきっかけ

私の住む渋川市赤城町は赤城山の西麓にあり、山からの伏流水を源とする大小約３０の川に恵まれ、豊かな水辺環境を誇っていました。そのため春先から田植えの頃には、どこでもホタルを見ることができました。

しかし、昭和４０年頃から農業地域では土地改良、基盤整備が進み、生産性向上のため農業用水路のコンクリート化や過剰な農薬散布により、水辺に棲む水生生物・昆虫などが激減、さらに水辺の植物や生物は外来種に脅かされ風景は一変、ホタルが見られるところはほとんどなくなってしまいました。

そんな中、昔からの自然・田園風景が残っている場所があり、宮田大島地区には数匹のホタルが飛んでいる姿を確認することができたのです。人と生き物が共存する風景のひとつであるホタルは、「無くしてはいけない地域の財産」です。この自然の歴史文化を次世代の子どもたちに何とか残したいという思いで、平成８年に「宮田ほたるの里を守る会」を発足しました。

### 活動をするにあたり

発足当初はホタルに対する知識が全く無かったので、大変苦労しました。会員が各自で調べたことを発表し合い、意見交換を重ねて少しずつ知識をつけていきました。また、他地域で同様の活動をしているところへ現地視察に出掛けたりもしました。そういった積み重ねで少しずつやるべきことが解ってきたのです。

### 主な保護活動

ホタルの棲む農業用水路周辺の環境整備を行っています。農道や土手の草刈り、植木や植物の伐採、ゴミ・空き缶拾いを実施し、維持管理につとめています。水路は浅いので、台風やゲリラ豪雨によりすぐに溢れてしまい、餌となるカワニナやホタルの幼虫が流されてしまうこともあり、その対策も随時行っています。

千葉県野田市の視察研修団体に説明

ホタルを観賞できる６月から７月までは、会員が毎夜交代で案内とパトロールを実施。会員の中には地区の子どもたちもおり、世代・職業を超え、地域が一体となって活動することで、地域の連携も深めています。

地元の小中学校で講演会や総合学習も実施しています。赤城町の自然やホタルの棲める環境、川の水を汚さない大切さなどの環境の問題について教えています。

### 活動への評価が大きな励みに

平成２２年度「群馬ふるさとづくり賞」を受賞。県の推薦を受け（公財）あしたの日本を創る協会の「あしたのまち・くらしづくり活動賞」へ応募。全国２１５団体の中から振興奨励賞を受賞しました。

これは、会員や地域住民が力を合わせて、無欲で取り組んだ成果が評価されたのだと思います。この受賞が会にとって大きな励みになっています。

### 急激な環境変化に対する思い

一昔前の宮田では農村の自然環境は保存され、水生生物や植物、昆虫は共存していました。ホタルもあちこちで観賞できたのです。

今、ほたるの里に訪れる人の目に子供のころのホタル狩りを楽しんだ数十年前の記憶が甦ってきます。

経済の向上を追い続けた結果、環境という貴重な財産を失い、時代の変化、生活の多様化により地域のつながりは希薄化してしまいました。自然と物と人との関わりをどのように考え、行動を起こせばいいのか、一人ひとりが問われています。

水生生物体験学習会の様子

水生生物体験学習会の様子

### 好きな言葉

山本有三著「路傍の石」の一説。「たったひとりしかない自分を、たった一度しかない一生を、ほんとうに生かさなかったら、人間生まれてきたかいがないじゃないか」

### 最後に一言

会員や地域の皆様方をはじめ、多くの方の協力を仰ぎながら、会の活動も２１年目を迎え、おかげさまで、今ではホタル生息地周辺の整備はかなり進み、ゆったりとしたホタル観賞を楽しんでいただけるようになりました。

今後も会員の英知を結集し、すばらしい赤城町の環境を守り、地域づくり・人づくりを進め、地域の活性化を図りたいと考えています。